

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表: 令和4年3月3日

事業所名 放課後等デイサービス・児童発達支援FreeDom

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		同じ空間(居室)に10名以上いることがないように活動を分けている。仕切りやパーティションも利用している。	
	2	職員の配置数は適切である	10		当日の利用者数にあわせて人員基準以上に職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	3	特性に応じた視覚提示をおこなっている。 4つの居室を用途によって分けて活動している。	段差があるため歩行が不安定な利用者がある場合は工夫が必要である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	2	日々の支援の振り返りは朝のミーティングでおこなっており計画の振り返りは児発管とリーダーで話し合い伝達している。	常勤スタッフは出来ているが非常勤スタッフには完璧にできていないこともあるので今後常勤非常勤共にできるようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		計画についての面談の際に事業所への意向なども確認し改善にとり組んでいる。	評価表の内容(表現)は保護者にとって難しいように感じるためわかりやすい内容(表現)に変更する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	7		出来ていないので検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		外部研修への積極的な参加またその内容を他の職員へも伝達するなど内部研修も多く実施できている。	非常勤の事業所内研修内容の充足をはかり回数を増やしていく。 スキルアップ目的。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10		支援計画作成前には面談などをおこない事業所での様子や聞き取りをおこないニーズを確認した上で作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	5	現在は事業所が考案したアセスメントツールを使用している。	標準化されたアセスメントツール導入については検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	担当を決めてチームで立案している。同じ職員ばかりが担当にならないようにしている。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	執着しやすい(固執化)利用者に対して柔軟性を養うために定期的にプログラムの変更をおこなっている。利用者の状況や季節に応じて様々なプログラムを取り入れている。	活動プログラムのレパトリーをふやしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	毎朝ミーティングで前日の利用者状況及び支援内容を振り返り改善点を話し合い当日の支援内容・職員配置・役割分担を決定しホワイトボードに記入している。野外活動時は担当職員を決めスケジュールを立案してもらい事前ミーティングをおこなっている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1 非常勤は参加できないので電子機器を使って参加できない職員にも情報共有をおこなっている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		行動分析を主体とした記録内容に変更することを検討している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	10		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		会議内容により参加者を決めている。(職員の育成も考慮したうえで。)必ず児発管か支援リーダーのどちらかは参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	7		該当利用者なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	2	保護者が希望した場合は就学前に関係機関を交えた会議を開催している。就学後に就学前に利用していた関係機関の情報が必要な場合は連絡をして確認している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	4		現在までに該当利用者なし。実施していく予定。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	1	研修には定期的に参加し事業所間では情報共有をおこなっている。	助言や連携ははかれていないため機会があれば連携をはかっていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	9		出来ていないので検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	5	地域の事業所連絡会には毎月参加している。	自立支援協議会には参加していないので必要を感じた場合参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	1	送迎時や連絡帳で情報共有をはかり気になる点がある場合は電話など直接話す機会をもつようにしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	3	電話や面談時に自宅での支援方法などをお伝えして実践状況なども確認するようにしている。	事業所ではまだ実施できていない。面談時などに保護者に説明をおこなってる段階。今後も面談時に保護者に説明をおこない実施していけるようにし外部研修なども保護者に職員と一緒に参加してもらえように話していきたい。	
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		定期的な面談などをおこない家庭状況及び悩みなどの聞き取りをおこなっている。	相談しやすい環境を作っていくため定期的に行事として機会を作ることも検討していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	9		今後検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10		迅速に対応し事業所だけでは解決・改善できない場合は関係機関と連携をはかり解決・改善に取り組む。	

責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		会報等はないが行事予定は毎月お配りしてブログにて活動内容などをお伝えできるようにしている。	今後研修内容やいろんな情報もブログなどでお伝えできるようにしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	8	2		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		視覚的スケジュール提示(個人・集団)をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	8		小規模事業所の為当事業所での行事の開催は難しい。なので地域の行事に参加できるように検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	1		今後マニュアルを新しく作成し保護者にも閲覧していただけるようにブログかホームページに掲載していくことを検討している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	1		年に2回実施しているが回数・内容の充足をはかっていく必要がある。 現在はコロナ禍で行くことができないが防災センターなどで体験していただけるようにコロナ禍が落ち着いたら再度レクリエーションにとり入れていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	1	常勤職員は年に外部研修1回・社内研修1回を最低限おこない非常勤職員は社内研修1回を最低限おこなっている。 児発管やリーダーがよくないと思われる対応があった場合はできる限りその場で職員に状況説明と指導・助言をおこなっており、虐待の情報(記事)はミーティングなどで共有している。	研修の回数をもっと増やし内容の充足もはかっていきたい。 今後は不適切支援についても掘り下げて意見交換できるように取り組んでいきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	6		該当利用者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10			報告書は作成しておりヒヤリハットが発生した場合は報告書を作成し当日又は翌日に共有している。